

# 1. 感染症速報（彦岐地区）

令和8年1月16日作成

2026年 第2週		1月5日		～		1月11日		作成：長崎県彦岐保健所 企画保健課	
疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	7.67	RSウイルス 感染症	0.00	咽頭結膜熱	0.00	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	0.00	急性呼吸器 感染症(ARI)	23.00
警戒：開始30 終息10		警戒：開始 - 終息 -		警戒：開始3 終息1		警戒：開始8 終息4		警戒：開始 - 終息 -	
感染性胃腸炎	2.50	水痘	1.00	手足口病	0.00	伝染性紅斑 (りんご病)	0.00	※定点数3：インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI) ※定点数2：上記以外の疾患	
警戒：開始20 終息12		警戒：開始2 終息1		警戒：開始5 終息2		警戒：開始2 終息1		※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道 炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又 は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す 病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、 新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど も含まれ、報告数は重複します。	
突発性発しん	0.50	ヘルパンギーナ	0.00	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	0.00	新型コロナウイル ス感染症	1.33		
警戒：開始 - 終息 -		警戒：開始6 終息2		警戒：開始6 終息2		警戒：開始 - 終息 -			
発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警戒レベル】			

※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフル：10 水痘：1 その他は設定なし。

# 2. トピックス

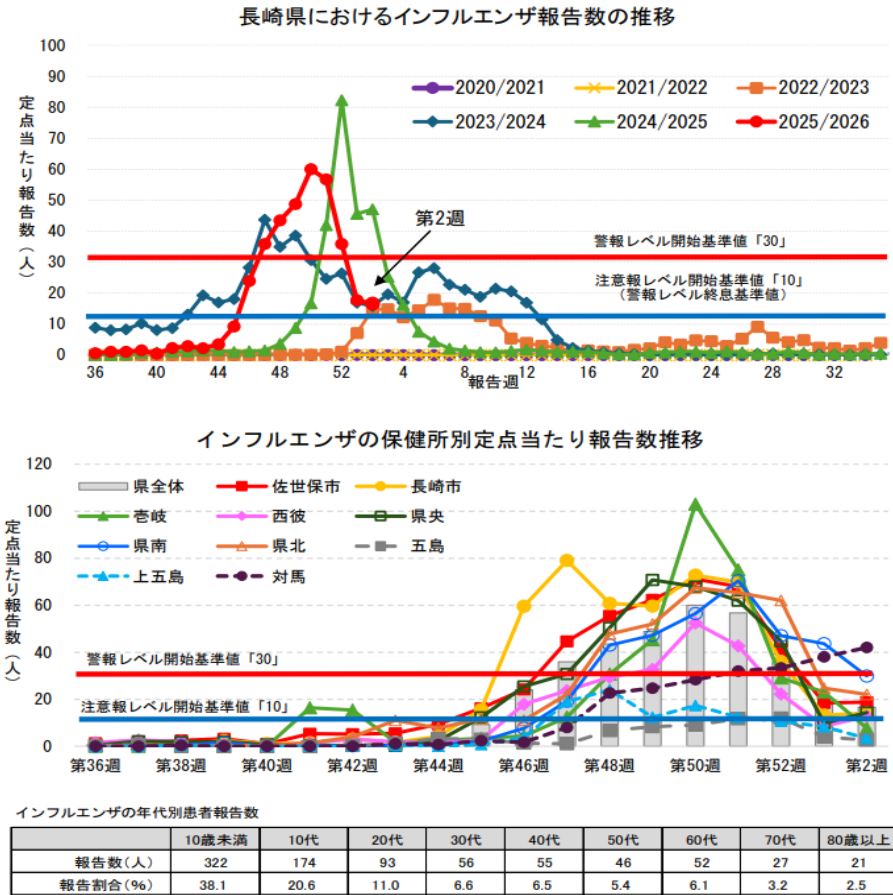
## ★インフルエンザに注意しましょう

彦岐地区においては、2025年第48週から第51週まで警戒開始基準値「30.0」を上回り、第52週から2026年第1週までは警戒レベル終息基準値「10」を上回っていました。第2週では「7.67」に下がり、警戒レベルではなくなりましたが、引き続き、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

長崎県内では第2週の患者報告数は846人で、定点当たり報告数は「16.59」となり、4週続けて減少しましたが、警戒レベル終息基準値を上回っており、警戒レベルの報告数が8週間継続しています。

また、地区別にみると、10保健所のうち5保健所で警戒レベル、2保健所で注意報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満（38％）、10代（21％）が多くなっています。

- ◎長崎県感染症情報センターホームページ「インフルエンザ」もご覧ください。
- ◎2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等
- (参考)厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」



## ★急性呼吸器感染症（ARI）に注意しましょう

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection:ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

ARIに含まれるインフルエンザなどの感染症は、冬期に患者数が増加する傾向にあります。予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもあります。場面に応じた対策を心がけましょう。

（参考）厚生労働省「令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策」

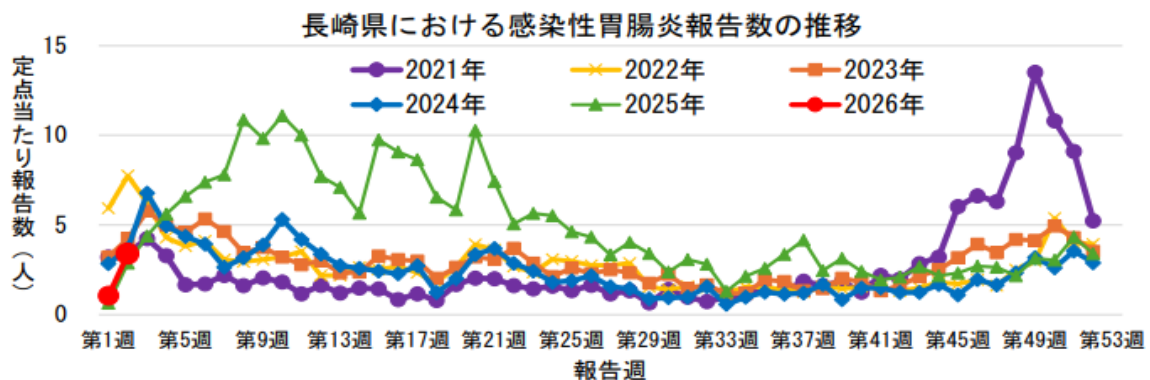
## ★感染性胃腸炎を予防しましょう

感染性胃腸炎は、12月以降に患者が増加する傾向にあります。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。



## ★水痘（水ぼうそう）に注意しましょう

壱岐地区においては第2週に定点当たりの報告数が「1.0」となり、注意報レベルとなっています。

水痘（すいとう）とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる、かゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。空気感染、飛まつ感染、接触感染により広がり、その潜伏期間は感染から2週間程度（10日～21日）と言われています。

水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。小児における合併症は、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎などがあります。成人での水痘も稀にみられますが、成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

水痘にはワクチンがあり、現在国内では乾燥弱毒生水痘ワクチン（以下、水痘ワクチン）が用いられています。また、家庭内接触での発症率は90%と報告されており、家庭内での感染を防ぐために水疱（水ぶくれ）に触れた後の確実な手洗いやタオルの共用を避けるといったことも重要です。

## ★感染症対策広報資料についてのお知らせ

内閣感染症危機管理統括庁から、感染症の基礎知識や対策についての資料提供がありましたのでお知らせします。

本内容は、新型コロナの経験を踏まえ、2024年7月に全面改定された「新型インフルエンザ等対策政府行動計画（政府行動計画）」を踏まえた内容となっています。

平時からの備えや、感染症危機時における身近な疑問についてまとめたものですので、ご活用ください。

また、こどもとその保護者が学べるよう、キッズページも新設されていますので、併せてご活用ください。

### ■広報啓発資料Q&A冊子（統括庁ウェブサイト）

[https://www.caicm.go.jp/houdou/documents/files/kansensyo\\_QA.pdf](https://www.caicm.go.jp/houdou/documents/files/kansensyo_QA.pdf)

### ■キッズページ（統括庁ウェブサイト）

<https://www.caicm.go.jp/kids/index.html>

